

坂本利彦と仲間たちによる

# 新春コンサート



2009年 1月11日（日）午後6時会場

午後6時30分開演

府中の森芸術劇場 ウィーン ホール（京王線 東府中駅 徒歩 5分）

主催 坂本ピアノアンサンブル

共催 京大交響楽団 OB 有志による室内楽団

ごあいさつ

皆様にはご遠路またご多忙のところ、わざわざご来聴いただきまして誠に有難うございます。

このコンサートでは、私の母校の先輩方のご支援とご協力を得て、弦楽五重奏によるデイヴェルテイメント、ピアノと弦楽五重奏によるピアノ協奏曲をプログラム前半で演奏させていただきます。

このような楽器編成で演奏されるデイヴェルテイメントも、またフルオーケストラでなく弦楽五重奏の伴奏によるピアノ協奏曲も、皆様が通常お聴きになっておられるものとは、一味違った感じを受けられるかと思えます。

また、後半にはソプラノ歌手、声楽の先生としてご活躍中の石原智子さんをお迎えして美しいソプラノソロをおたのしみいただきたいと存じます。

本来、私どもアマチュアのコンサートをお聴きいただく皆様には、古典落語「寝床」の義太夫自慢の大家さんのように、酒肴のおもてなしを差し上げねばならないところと存じながら、なにぶん勤め人上がりの身分にて経済的余裕もあまりない状況に鑑みて何卒ご容赦いただきたくよろしくお願い申し上げます。

どうぞ最後までごゆっくりお聴き取りいただきますれば幸いです。

このコンサート開催に当たり、京大関係では谷口安平先生、音楽関係では新田ユリ先生から温かな励ましのメッセージをいただきました。また、ポスター、チラシ、プログラム等作成に関して、私が常日頃お世話になっておりますコーラス・サファイア（府中市シルバー人材センター内の同好会、府中市中央文化センター自主グループ）加藤会長様にお力添えをいただきました。ここに心より厚く御礼申し上げます。

2009年1月11日

坂本利彦

<PROGRAM>

1、弦楽五重奏

デイヴェルテイメント 第2番 変ロ長調 K137 モーツァルト

第1楽章 アンダンテ

第2楽章 アレグロ・デイ・モルト

第3楽章 アレグロ・アッサイ

第1 ヴァイオリン 田中郁三

第2 ヴァイオリン 坂田良三

ヴィオラ 森田 修

チェロ 中村康雄

コントラバス 山本 健

2、ピアノと弦楽五重奏による合奏

ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 OP11 ショパン

第1楽章 アレグロ マエストーゾ

第2楽章 ロマンツェ ラルゲット

第3楽章 ロンド ヴィヴァーツェ

ピアノ 坂本利彦

第1 ヴァイオリン 田中郁三

第2 ヴァイオリン 坂田良三

ヴィオラ 森田 修

チェロ 中村康雄

コントラバス 山本 健

<休憩>

3、ソプラノ ソロ

1.アヴェマリア

グノー

2.私を泣かせてください

ヘンデル

3.ああ、愛する人の

ドナウデイ

4.からたちの花

山田耕筰

5.この道

山田耕筰

6.落葉松

小林秀雄

7.オペラ「セビリアの理髪師」より“今の歌声は”

ロッシーニ

8.オペラ「椿姫」より“花から花へ”

ヴェルディ

ソプラノ 石原智子

ピアノ 坂本利彦

<曲目解説>

デイヴェルテイメント 第2番

モーツァルト

1771年末に第2回イタリア旅行から戻ったモーツァルトの手から3曲の弦のみのためのデイヴェルテイメントが生まれた。成立事情は全く知られていない。又これらの曲がどういう編成のために書かれたものかがはっきりしていない。しかし、十分に我々の耳を楽しませてくれる。デイヴェルテイメントの性格からも、そうした自由を楽しんでよい作品と考えておこう。

第2番は第1番(K136)の姉妹作。緩—急—急の3楽章構成がとられている。こうした配列はイタリアの室内楽によくみられるもの。ここではそれが次第にテンポを加速する結果となっているのが興味深い。

クラシック名曲ガイド (音楽之友社) より

ピアノ協奏曲 第1番

ショパン

「ピアノの詩人」と呼ばれるショパンはその音楽の表現手段をピアノという楽器以外には見出せなかった作曲家であるといっても過言ではないだろう。オーケストラを伴うピアノ作品はいくつか作曲しているが、2曲のピアノ協奏曲を含めて僅か6曲しかない。その殆ど全てが1830年までのショパンのポーランド時代に作曲されている。

ピアノ協奏曲第1番は1830年秋作曲され、ショパン自身の独奏で初演された。曲は三つの楽章からなり、古典的な協奏曲の形式を踏襲しているが、ピアノとオーケストラとの比重には大きな差がある。ショパンの瑞々しい情感と新鮮な感覚、さらにピアニスティックな名技性があふれており、今日の多くのピアニストのレパートリーとして重要な位置を占めていることは間違いない。

クラシック名曲ガイド (音楽之友社) より

## ソプラノ 歌曲

### 1. アヴェマリア

J.S.バッハの「平均律クラヴィア曲集」の第1巻、第1曲の「前奏曲」を伴奏に、グノーがメロディーを付けた。

アヴェ マリア  
神の恵みに 満ちたる君  
幸にあふるる君  
おみなの中に 君一人は  
イエスが母となりたまいき  
サンタ・マリア サンタ・マリア マリア  
汚れし我を 哀(アワ)れみたまえ  
生くるこの日も 死する時にも  
アーメン アーメン

### 2. 私を泣かせてください

オペラ「リナルド」から、アルチーナのアリア。  
悲しい歌詞ながら、大変美しい旋律に乗せて歌わせるヘンデルの傑作。

過酷な運命に涙し、  
自由に憧れることをお許してください。  
私の苦しみに対する憐れみだけによって  
苦悩がこの退りを打ち毀してくれますように。

### 3. ああ、愛する人の

ドナウディ歌曲の代表的な歌曲のひとつ。とても感傷的で、せつない曲。

ああ、魅惑に溢れた愛する人は失われてしまった。  
私の栄光であり誇りであった人は私の目から遠い。  
黙して語らぬ部屋で、私はいつもその人を捜し呼び求める。  
だが、捜しても無駄、呼び求めても無駄。  
そして涙は親しいものになって、  
私は涙だけで心を養っているほどだ。

#### 4.からたちの花

山田耕筰と北原白秋との交友の中から生まれた曲。

カラタチの白い花を眺めながら、ありし日の光景が次から次へと脳裏に浮かぶ。

青くて痛いとげ、畑のカラタチ垣根、金色の実、そしてカラタチのそばで泣いた思い出....

山田耕筰の体験を元にして作られた。

#### 5.この道

白秋が『からたちの花』の次に姉妹のように思い作った曲。

山田耕筰の代表曲。

#### 6.落葉松

落葉松の林全体が黄色にそまり、ぱらぱらと葉が落ちるさまが目に浮かぶ曲。

#### 7.オペラ「セビリアの理髪師」より“今の歌声は”

リンドーロの告白の歌を聴いたロジーナは、心の高鳴りを覚え、返事を書いた手紙を手に有名なアリアを歌う。

今の歌声は、リンドーロだわ。

私は心が高鳴ります。リンドーロは私のもの。

あのやきもちやきの後見人はきっと拒むけど

勝ってみせるわ、策を持っても。

#### 8.オペラ「椿姫」より“花から花へ”

高級娼婦ヴィオレッタは純情な青年の求愛に心ときめかせる。

しかし、現実に戻された彼女は享樂的な人生を楽しむのよと自分に言い聞かせる。

アルフレードとの恋愛に乱れる心を表すコロラトゥーラの華やかな曲。

#### <出演者プロフィール>

田中郁三

昭和28年3月京都大学工学部卒、工学博士

京大交響楽団にてヴァイオリン（コンサートマスター）を担当。

この間、主として大学卒業生のオーケストラ「こんせえる・ぬうぼう」にて、ショスタコーヴィチ作曲オラトリオ「森の歌」を本邦初演。後年、萩原正吟師から胡弓の奏法を学ぶ。会社勤務時に同好の士と室内楽を演奏。最初は工場の文化祭で、宮城道雄作曲「春の海」を琴と共演、最後は本社の文化祭で、シューベルト作曲ピアノ5重奏曲「鱒」の第2楽章。現在国際特許事務所に勤務の傍ら、市民オーケストラ及び化学オーケストラに在籍して演奏活動を継続中。

坂田良三

昭和31年3月京都大学工学部卒、工学博士。

京大交響楽団にてヴァイオリン、ヴィオラを担当。

会社勤務を経て定年退職。市民オーケストラ（三鷹市管弦楽団）に最近まで在籍。

現在は地域（江戸川区）音楽活動に参加。

森田 修

昭和31年3月京都大学工学部卒。

京都府福知山市の福知山高等学校での器楽クラブ活動でヴァイオリンと指揮を担当。

京大交響楽団にてヴァイオリン、ヴィオラ（コンサートマスター）を担当。

会社勤務を経て現在APA（アマチュア演奏家協会）での室内楽、西東京交響楽団、ルソール弦楽合奏団等でヴィオラ奏者として活躍中。

中村康雄

昭和28年3月京都大学医学部卒（薬学科）

京大交響楽団では当時の指揮者山田忠男氏の指導を受けフルートを担当。吉田雅夫、村松孝一、金昌国各氏からも種々教示を得た。フルートの本当の難しさ知るとなり、才能教育研究会の何人かの先生方からヴァイオリン奏法を学び在京のいくつかアマオケにビオラとして参加させてもらったが、会社員時代は海外勤務や出張の連続でオケは長続きせず室内楽に転向した。中年になってチェロを佐藤良雄氏に師事。現在はチェロで室内楽活動を継続中。APA（アマチュア演奏家協会）設立に関与し終身会員。日本ヨハン・シュトラウス協会会員。田中郁三氏とは中学で同級、ともに京都市高校連合オーケストラの創立に参加。今回、坂本利彦氏とは新制、旧制の違いはあるが小学校以来の先輩であることが判明。仕事は創薬と医薬開発の領域で活動していたが業務は75歳で総て終了した。

山本 健

昭和37年3月京都大学経済学部卒。

京大交響楽団にてコントラバスを担当。

銀行勤務を経て、現在も在職中より引き続き所属している地域オーケストラ（大宮フィルハーモニー）にてコントラバス演奏活動を継続中。

石原智子

大阪府出身、武蔵野音楽大学卒。

東京室内オペラ、パセリの会、カンタンテステッレ、日本イタリア協会、東京オペラグループ等に出演。

中国理事会第3回「長江杯国際コンクール」一般の部1位。

コンセールヴィヴァン新人オーディション合格。

三池三郎氏、大島義彰氏に師事。

板橋区演奏家協会会員、東京二期会会員。

2006、2008年財団法人府中文化振興財団主催コンサートなどでピアニスト坂本利彦氏と共演する。

坂本利彦

昭和36年3月京都大学法学部卒。

4歳よりピアノを故東貞一氏、高木茉莉氏他に師事。

京大交響楽団にてピアノ、クラリネットを担当。大阪フィル、京大響、京都府医大響、京都産大響、府中市民響、羽村フィル等とピアノ協奏曲を共演。

1998年日本アマチュアピアノコンクールで特別賞受賞。

会社勤務を経て、現在ピアノ演奏活動、アマチュアのオペラやコーラス活動、指揮者新田ユリ友の会運営などに携わっている。APA 会員。



**連絡先** [http://homepage2.nifty.com/pianoensemble/  
toshihikosakamoto@nifty.com](http://homepage2.nifty.com/pianoensemble/toshihikosakamoto@nifty.com)  
042-364-3778 坂本